



定年退官を迎えて	1ページ
三重病院レポート「人形劇団が来てくれました!!」・市民公開講座「こども健康教室」を開催して「やまぼとギャラリー」「個展」情報コーナー!	2ページ
けいれんのお話/医療福祉相談室だより	3ページ
アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

定年退官を迎えて

国立病院機構三重病院・院長 庵原 俊昭



私が三重病院に赴任したのは1988年(昭和63年)です。それから27年間、三重病院で働いてきました。最後の10年間は、院長として病院の経営に関わってきました。この27年間の思い出を、医療、教育、研究、経営の面で振り返ってみました。

私が赴任した頃は、整形外科病棟が一つ、結核病棟が一つと小児科病棟が四つありました。私が担当したのは小児急性病棟でした。その時は小児医療センターを目指していました。小児外科が開設され、耳鼻科や眼科も開設されました。しかし、小児医療が進歩し、少子化も進んだ結果、長期に入院する子どもの数が減少し、現在小児病棟は一つになりました。近年各地で小児病棟の成人との混合化が進んでいますが、よい小児科医、小児外科医、小児看護師を育てるためには、小児病棟は必須と思い、維持してきました。

国立病院機構では、国が行う医療(政策医療)として重症身体障害児(者)の医療(重心医療)を行っています。当院では重心病棟の主治医を小児科が担っています。当院の重心病棟は、他の病院と比べると重症度が高い人の割合が高いのが特徴です。十分なケアをするために、小児外科医、耳鼻科医、麻酔科医、整形外科医などが協力してくれています。私が院長になってから、少しずつ医師が集まり、3人の小児外科医、2名の耳鼻科医、2名の麻酔科医、2名の整形外科医が重心医療をサポートしてくれています。三重病院は三重県の重心医療のセンターとして活動しています。

教育の面では、当院は医師、看護師だけでなく、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語療法士)、栄養士、介護士、社会福祉士などの教育実習をサポートしています。看護師では5か所の教育機関(大学2、専門学校3)の学生が実習していますが、この5か所の教育機関のうち3か所で、三重病院で育った人が学生の指導をしています。三重病院の宝と思っています。

私が院長になった時、看護部に二つの事をお願いしました。一つは、「学生に選んでもらえる病院」になろうということでした。看護部は、学生が実習しやすい環境を作ってくれました。二つ目は「頼まれた看護教育実習は断らないようにしよう」ということでした。当院では、7月も8月も学生の

実習を受け入れています。この結果、この数年は学生に選ばれる病院になりました。

研究はいくつになっても楽しいです。三重病院に来たとき、麻疹が流行りました。この時、麻疹の研究を開始し、今まで続いています。その後、三重県の開業小児科の先生と一緒に、おたふくかぜ、インフルエンザ、水痘などの研究をしています。MRワクチン2期接種の開始に三重県のデータが使われました。小児のインフルエンザワクチンの接種量の変更にも三重県のデータが用いられました。2014年10月から始まった水痘ワクチン2回接種による定期接種には、三重県のデータが基礎となりました。おたふくかぜワクチンの定期接種化を目指して研究を続けていますが、厚労省はなかなか手強いです。

国立病院機構の先生とは、H5N1インフルエンザワクチンの研究や2009年パンデミック時のワクチン研究を行いました。特に、2009年パンデミックワクチンの研究結果から、成人のパンデミックワクチンは1回接種でいいことを発表し、政策に反映されました。周囲の影響にとらわれることなく、データを正しく読む力が大切であることを再確認しました。

今は、インフルエンザ菌、肺炎球菌、百日咳などの細菌ワクチンの効果に関する研究も行っています。肺炎球菌ワクチンの研究から、ワクチンには限界があることも知りました。

コンスタントに設備投資をし、経営を安定させるためには、経常収支率105%以上が必要とされています。院長就任後、医療保険制度が小児医療に手厚くなったこと、看護師に選ばれる病院となり障害の7:1看護がとれたこと、手術件数が増えたことなどから、105%には届きませんが、コンスタントに経常収支がプラスになりました。その結果、思い切って2011年に入院病棟を新築し、2013年に電子カルテを導入しました。

当院は、2011年12月の中央棟(入院病棟)の完成でハード面の整備はひと段落しました。今後はソフト面の充実と職員の経営意識の向上が大切と思っています。平成27年度から新院長に代わりますが、院長退職後も囑託として三重病院の医療や研究をサポートし、楽しく仕事をする予定です。今後よろしくお祈りします。